文化の伝承と婦人部活動

―「白石踊り」の島、人も漁業も元気を出そう！―

白石島漁協婦人部
部　長　河田　瑞恵

１．地域の概況

私たちの住んでいる白石島は、岡山県の西南部、広島県との県境に位置した人口約６万人の笠岡市に属し、笠岡湾から南へ約１２ｋｍにある笠岡諸島の一つである。東は、水島灘、西は燧灘に位置した離島であり、古くから好漁場に恵まれ、漁船漁業の盛んな所である。

また、国の重要無形民族文化財「白石踊り」の島としても知られ、夏には海水浴客で賑わう。近年、国際交流ビラができてからは、年間を通じて外国人が訪れる島となった。

現在、島の人口は８３５人で、内、漁業者は１６８人である。

２．漁業の概況

組合員の経営は、小型底びき網、小型定置網、一本釣、建網漁等の漁船漁業と冬場はノリ養殖業を営んでおり、平成１１年度の総生産額は１億３千万円となっている。

また、島には、漁場環境整備により、魚が大きく元気に育つ環境を作ろうと、県の指導のもと音響馴致という放流技術を取り入れた海洋牧場が作られており、幼稚魚から成魚、親魚まで一生を通して生活できるよう魚種別に成長に応じて棲息場が設けられており、チヌ、キジハタ、カサゴ、メバル、アイナメなどが定着するようになった。

３．グループの組織と運営

私たち白石島漁協婦人部は、昭和６１年に結成され、今年で活動１４年目を迎えた。現在の部員数は３２名で、平均年齢は６１才である。部員のほとんどは、島内出身者であるが、国際結婚で来られた方も３名おられ、島同様に婦人部も国際化している。役員は部長１名、副部長２名、幹事２名で構成されている。

組合には、青壮年部も組織されており、イベント等、島の活性化活動には一緒になって積極的に参画している。

婦人部独自の収益活動の１つとして、平成４年から、ゲタ、グチ、ネブト、エビ等の小魚のミンチ加工を始めた。６月から８月中旬までの毎週木曜日、６０～７０ｋｇを加工し、１パック５００ｇ入り、４００円で島内で販売している。限りある魚資源の有効利用はもとより、新鮮で栄養豊富な小魚を島内の皆さんに食べて頂こうと、婦人部活動のＰＲも兼ねて取り組んでいる。ミンチ販売はとても好評で、いつも完売している。加工活動に参加した部員には、時給５００円を支給し、残りの収益は婦人部の活動費にしている。

４．実践活動課題選定の動機

婦人部結成当時、島の人口も漁業者人口も減少を続けており、若者の島外流出による後継者不足が、問題となっていた。

そこで、婦人部で取り組める島の活性化のための活動は何かないかと話し合いを重ねた結果、「白石踊り」を通じた文化の伝承と交流活動に取り組むことになった。

「白石踊り」は、私どもの島で８００年程前、源平の時代から踊り継がれている踊りで、昭和５１年には国の重要無形民族文化財にも指定されている伝統芸能である。源平合戦の死者の霊を慰める「慰霊」のためのこの踊りは、男踊り、女踊り、奴踊り等６種類の踊りを１つの太鼓と「口説き」と呼ばれる唄に合わせて踊る。毎年８月１４日の夕刻から海水浴場の砂浜を舞台に厳粛な雰囲気の中で踊りが披露され、これを見るために県内外から多くの観光客が訪れる。それぞれの装束を着けた踊り手が、夕刻の砂浜で踊る様には、誰もが感動を覚える。

私たちは、この踊りを婦人部活動にも取り入れ、「白石踊り」をみんなで習い、子供達に伝えることによって、伝統ある白石島に生まれ育ったことを誇りに思い、郷土を愛する若者を育成していくことも、地域の婦人部としての役割ではないかと考えて、取り組んだ。

５．実践活動状況及び成果

まず、島の「白石踊り保存会」に部員全員で加入し、活動をはじめた。保存会は高齢化で活動も停滞気味であったが、私達が加入したことで、先輩達も元気をだしてくれた。

そのころ、島の幼稚園、小学校、中学校では、郷土について知り、郷土を愛する子供を育てようと「ふるさと教育」が行われていた。その一環として、「白石踊り」が取り上げられ、学校の授業の中でも練習時間がとられるようになり、婦人部員も講師として呼ばれ、島の先輩達と共に、子供達に踊りを伝えるようになった。

初めのうちは、踊りはできても、教えるということに尻込みする部員もあったが、回を重ねるうちにだんだんと教え方に熱がこもるようになった。今では、部員全員が自信をもって、踊りを教えることができるようになっている。

幼稚園、小学校、中学校で４月から７月の間、それぞれ月２回の練習を行い、６月からは週２回夕方からＰＴＡの練習が加わる。更に７月に入ると、子供からお年寄りまで５０人～６０人が公民館に集まって同じく週２回練習するようになり、８月１４日からの本番に備える。

当日は、例年３，０００人の観光客で夜遅くまで賑わう。婦人部員も踊り手としての参加の他、子供達の着付け係りや水産物のみやげもの販売にと大忙しであるが、婦人部活動をＰＲする絶好のチャンスと、がんばっている。

このような島内イベントへの参加は勿論であるが、県内各地で開催される大会やイベントには、岡山県を代表する伝統芸能として踊りを披露している。最近のおもなものは、岡山県漁連創立５０周年大会や昨年岡山県で開催された全国ホルスタイン共進会ファームフェスタ２０００インおかやまへの出演である。

また、市の助成を受けて、ビデオテープ、ＣＤを作成して島の観光協会で販売して頂いている。

私たちは、白石踊りを通して白石島を多くの人に知ってもらい、観光客を呼び込みたい、そして、島を元気づけたいとの想いで婦人部の出番を作っている。

踊りを通じて、子供達と交流を重ねるうちに、島の産業である漁業を知る学習として、島の子供達の体験漁業の支援に発展した。青壮年部と協力して地引き網体験を行い、魚を一緒に料理して味わっている。白石踊りを通じて顔見知りになっている子供達なので、は

じめからわきあいあいと、活動できている。この時には、決まって、私たちが加工しているミンチを使った団子汁も合わせて提供しているが、とても好評で、学校給食のメニューの１つにも加えられた。

６．波及効果

白石踊りで島を元気づけたいと願っている私たち婦人部組織とは別に、漁協青壮年部では、前に述べたように、平成６年から音響馴致という新しい放流技術を取り入れた海洋牧場事業に取り組んでいる。

県内で初めての取り組みであることから、県内外や海外からの見学者も多く、また、観光船、定期船の発着場付近でもチヌが目認できることから、子供連れの関心事にもなっている。観光客からの魚の餌付けもできるようにして、漁業者が魚を大切に管理していることの啓発にもなっている。

また、市の支援を受けて、島内だけでなく島外の子供達も対象にした地引き網の体験漁業を毎年７月に開催しており、公募で集まった親子連れの参加者との交流もしている。

この他、島を修学旅行で訪れる中学生の体験漁業にも関わるようになり、現在年間１３校程度の修学旅行をはじめとして、多くの団体を受け入れるようになってる。

昨年６月には、岡山県高梁市の中学校から、１年生４０名が島を訪れ、郷土芸能、郷土料理、漁業の３課題について勉強したいとの要望があり、青壮年部、婦人部が協力して生徒たちからの質問１つ、１つにみんなで対応して、漁業の紹介を行った。

海洋牧場の導入、さらに体験漁業への取り組み、そして学校行事の受け入れへと発展し、島の観光といえば「白石踊り」と海水浴だったものが、漁業関係者みんなで、島に人を迎えようという姿勢に変わってきている。

７．今後の課題や計画

「白石踊り」を通じての子供達との交流活動に始まった私たちの活動は、島と漁業の活性化に向けた取り組みへと、だんだんと発展している。

これからの具体的な活動計画としては、ミンチ加工の拡大、笠岡諸島女性ネットワークへの参画、相互扶助への取り組みをあげている。

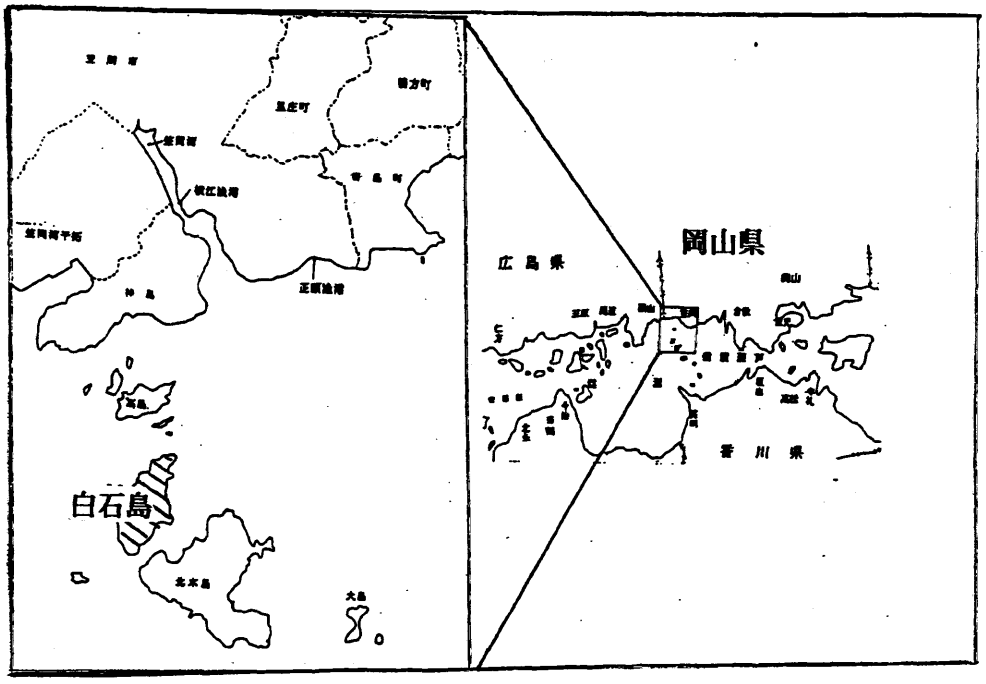
ミンチ加工活動は、現在ミンチの販売だけであるが、今後は、２次加工にも取り組み、餃子やコロッケを商品化し、付加価値加工品として販売し、収益増に繋げていきたいと思っている。あわせて、ＥＭぼかしを利用した生ゴミ処理を行い、環境に配慮した加工活動を続けていく。

また、女性の社会参画が強く言わる中、昨年発足した笠岡諸島女性ネットワークに婦人部も参画し、笠岡諸島６島の女性組織が一緒になって、今後の島の活性化について考え活動を広げていきたいと考えている。ネットワークの名前も「笠岡諸島生き活き会」と決まった。

次には、婦人部として取り組める福祉活動を考えている。高齢化が進む中、相互扶助の考え方は、島にはなくてはならないものである。日頃から声掛けに心がけ、高齢者世帯の安否の確認に努めている。島には老人福祉施設はないが、月に２回、笠岡市のデイサービス船「夢ウエル丸」が入港する。この船では、血圧測定や機能回復訓練、入浴や食事のサービス等、陸地部にある施設と同様のサービスを受けることができる。しかし、定員１５名で月に２回とまだまだ不十分である。そこで、島の憩いの家で、ミニデイサービスを開

こうと計画している。参加希望者を島内新聞で募集し、婦人部の手作り弁当を食べていただき、歓談する場を設け、高齢者の社交の場にしていきたいと考えている。私達の取り組みは、将来の私達自身のためのものでもある。この取り組みが、婦人部活動にとどまらず、漁協事業の１つとして位置づけられるよう希望する。漁協合併の波が押し寄せているが、いつまでも漁協が私達の心のよりどころであるようにと望むからである。

これからも、「人も漁業も元気を出そう」を合い言葉に、漁業環境づくり、島の生活環境づくり、そして、島全体の活性化に向けた活動をしていく。そして、さらに私たちひとり一人が、生きがいをもち、魅力的な生活を送ることができるよう努めて参りたいと思う。



子供たちの「白石踊り」

地引き網の体験漁業